



# 学校だより

横浜市立六つ川台小学校

6月号

平成26年5月30日

ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/mutsukawadai/>

心をひとつに、ベストを尽くして

学校長 柳澤 潤

「今年は、てるてる坊主の用意は、いらないようですね」ある保護者の方から、運動会の数日前に話しかけられました。運動会当日の天気は、雨の心配がいらないのは、親も子も、先生もうれしいことです。5月24日（土）には、六つ川台小の第39回運動会（台小サンサンスポーツ祭）が予定のとおり実施され、晴天に恵まれて大成功で終わることができました。

多くの保護者、地域の皆さんから、子どもたちの競技や演技に対して大きな声援や拍手をいただいたことは、何よりの励ましとなりました。役員の方々には、当日までの準備や運営にも協力していただきました。会の終了後には、たくさんの方がテント等の後片付けのために残ってくださり、気持ちよく手伝っていただきました。保護者、地域の皆さんに支えられ、事故なく盛会にできましたこと、心より感謝申し上げます。

さて、今年の運動会のスローガンは、「心をひとつに ベストを尽くして スマイル台小運動会」でした。

団体演技は、二学年合同での発表です。1・2年は、テンポのよい、リズムに乗ったダンス。「シュッ、シュッ」と切れのある演技もさえていました。3・4年は、サザンの曲に合わせて演技。テンポとリズムに乗ることに加えて、軟らかな表現も上手でした。5・6年は、伝統となっているソーランの演技。心も動きも一つになった力強い一体感を表現しました。エンディングのソーランタワーは、組み体操の3段円筒。一番上の子どもが決めのポーズをしたときには、ひととき大きな拍手が起こりました。

当日までの毎回の練習が、心をひとつにすること、ベストを尽くすことへの挑戦だったはずですが、どの子どもも、最高の表情を見せて演技をしていました。練習の時の様子も知っていたので、感動はひとしおでした。

団体競技は、白組がどの競技も競り勝って、赤組に得点差をつけました。全校競技の大玉送りは、赤組にとって最後の逆転をかけた試合になりました。赤組も白組も気合いが入ります。結果は、わずかの差で、白組が先にゴールしました。白組が大喜びではねている一方で、赤組の子どもたちが呆然と座り込んでしまう場面が印象的でした。また、リレーの力強い走りや、抜くか抜かれるかの場面は会場を大いに沸かせました。

全力の応援は、応援団の活躍が力になりました。運動会前の団結式から、団長を中心にして雰囲気は大いに盛り上げ、各色の絶対勝利への一体感を作りました。運動会の歌では、「マグマのような赤組の力の炎を燃やそうよ」「吹雪のような白組の激しい闘志を燃やそうよ」「今日は台小運動会」の歌詞のところだけが異様に盛り上がり、歌声から勝負していました。応援合戦も声を張って、赤も白も元気に応援しました。

今年も運動会プロジェクトとして、5・6年生が中心となり、「みんなで運動会を作り上げよう」というめあてのもとに、役割を分担して準備や運営に当たってきました。表舞台の仕事も、陰の仕事も誇りをもってよく働きました。

アンケートでいただいたご意見から一つを紹介します。

「どの競技も皆、一生懸命さが伝わり、とても感動しました。また、低学年の子が転んだとき、高学年のお姉さんたちが、さっそそばに行き、支え、声をかける姿にも（心もよく成長していると感じました）感動してしまいました。縦のつながりも子どもの成長にとっても役立っていると感じました。

高学年のお兄さんお姉さんがよく手伝い、動いて、皆がともに支え、今日の運動会を（心をひとつにベストを尽くして）皆で作ってあげ、すばらしい運動会になったのだと思いました。」

励ましは力になります。お寄せいただいたアンケートを受け止め、今後の改善につなげていきます。

熱中症や食中毒も心配な時季といわれます。体調管理にも十分留意していきたいと思います。保護者・地域の皆様、今月もどうぞよろしく申し上げます。